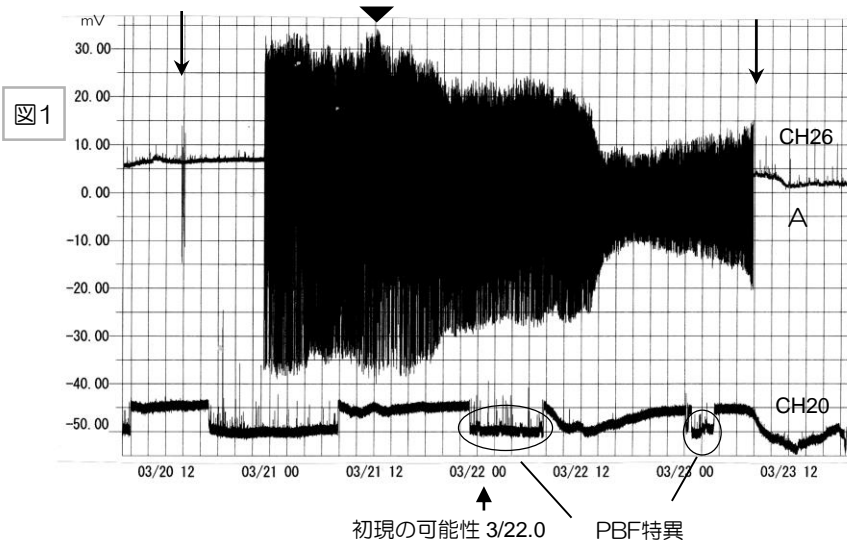


※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は30年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mailまたはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」には是非ご参加下さい。2024年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され(前兆規模M6.1±0.5、深海補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5)、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

No1778長期変動 CH26顕著特異 3/23朝終息 3/23夕刻を示したが CH26にPBF出現 3/22初現 - 3/23.5極大の場合=3/26を示す

初現の可能性 3/20.6 変動極大の可能性 3/21.5

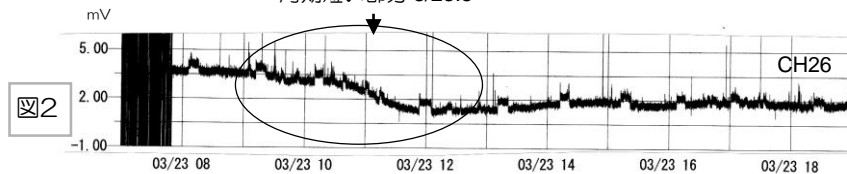


◆Stage-34の変動は図1の様なCH26の顕著な特異変動でした。この変動は本今朝に静穏化しました。この関係からは本日の夕刻を示しました。

◆しかし、顕著な特異変動が静穏化したCH26に図2に拡大したとおり、PBF特異が現れました。初現は顕著特異が出ていたため不明ですが、図1の下基線CH20に3/22の0時から短時間PBF特異が出現しています。当初はCH26の顕著特異の関係で出現している可能性も考えましたが、現在出現中のCH26-PBF特異の初現の可能性が考えられます。図1のAの部分=CH26にPBF特異が出現している時間帯にCH20にPBF特異は認められませんので、初現と考えるのには疑問もありますが、他にCH20のPBF特異を説明できません。

CH26 A部拡大

周期短い部分 3/23.5



◆仮に前述のとおり、PBF特異が初現=3/22.0 極大=3/23.5 である場合は、T_{map}:T_{map}=20:13 経験則を使用して、3/26が求められます。

◆図2の楕円で囲んだ時間帯が周期)が短く見えるため、上記で極大認識としましたが、今後より明確な極大が観測された場合には、修正させて頂きます。

●推定領域：図3の太線領域内=大枠推定領域
図3斜線域=可能性が考えやすい推定領域
震央が火山近傍領域を含む可能性高い

●推定規模：主震 M8.0±0.3 または
複合の場合=M7.3±0.3 + M7.1±0.3 他等
Log L=0.5M-1.8 (Utsu.) 式で 余震を含まない大型地震の断層長 Lkmが合計で約110~150km程度となる様な複合地震活動の可能性 (群発的な活動の可能性も有)
※直近で噴火の可能性が考えられる変動はないため、現状では震央近傍火山の噴火の可能性は考えにくい

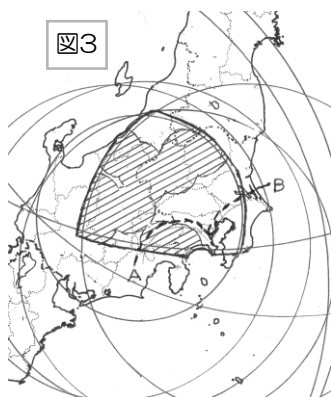
●推定時期：3/26 (誤差~3/27まで) 但し今後PBF特異極大が出現の場合は修正
※上記時期に極大が出現した場合は上記否定。続報予定

○推定地震：震源浅い陸域地殻地震

○推定発生時刻：午前09時±2 午後06時±3 (午前09時±2の可能性若干高い)

※30年の観測で初めて体験する長期継続変動のため推定が間違っている可能性も否定困難

図3



A~B弧線以南の可能性は極めて低い

※仮に推定に近い活動が生じた場合でも被害が少ないことを祈ります。